

# 「京のくうしん菜」で日本を元気に

## 水耕栽培で安定供給、順調に販路拡大

【京都】久御山町の川崎 栄養豊富な水を使い、環境を制御したハウス4棟(60坪)で年間約30トンを収穫。経営を順調に伸ばしている。深井戸から汲み上げた



くうしん菜の魅力を語る川崎さん

スーパーや飲食店に出荷している。くうしん菜は、ホウレンソウや小松菜に比べて栄養価が高く、炒め物、おひたし、スープなど、多彩な料理に使える万能野菜。「京のくうしん菜」は、水耕栽培なので葉が柔らかく、サラダでもおいしく食べられる」と取引先から高く評価されている。

農業ビジネス商談会に出席し、意欲的に販路開拓に取り組み川崎さんは、関西での消費拡大にも力を入れており、現在、ハウス1棟(20坪)の増設を計画している。今後の目標をたずねると「くうしん菜で日本を元気にしたい」と力強く語った。(今井久遠)

# 花咲くイチゴ農園めざす

## 「農業を明るいイメージにしたい」

【滋賀】「家族と出かけたイチゴ狩りで自分もイチゴ農園を開きたいと強く思った」と就農のきっかけを話す愛荘町の原真由美さん

## 愛荘町 原 真由美さん



「家族で息抜きできる場になればうれしい」と話す原真由美さん(左端)一家

間イチゴの栽培技術を学び、昨年9月に独立した。現在は「章姫」と「紅ほっぺ」を20坪栽培し、直売所で販売している。原さんは「イチゴは見た目も赤く、甘い香りで幸せな気分になる。お客さまにも気持ち良く過ごしてもらおうことが目標」と笑顔で話す。

農園全体の雰囲気づくりに力を入れており、チューリップやヒマワリなどの季節ごとの花の栽培にも挑戦する予定で、現在、圃場を整えているところだ。原さんは「四季を感じながら農業を楽しみたい。農業を明るいイメージにしたい」と意欲を見せている。(福井かれん)

# 「シイタケを市の特産品に」

## 夫婦で移住就農「出荷量増やしたい」

【奈良】葛城市でシイタケ栽培に取り組み光芒ファームの橋本卓也さん(37)、麻名未さん(37)夫妻は、ハウス1棟2坪で3千菌床栽培し、道の駅かつらぎなど



「葛城市産のシイタケといえば光芒ファームと言われるように認知度を上げていきたい」と話す橋本卓也さん、麻名未さん夫妻

栽培したいとの思いから、三重県のシイタケ農家のもとで研修を受けて栽培技術を学んだ。その後、実家との距離や販路の確保など葛城市での就農が適していると考え、圃場を探すため、農業委員会に相談した。協力を得て地元農家から紹介を受けたことで大阪府から同市へ移住し、2024年3月に就農した。

卓也さんはハウス内の温度・湿度管理を徹底し、麻名未さんは光芒ファームの商品と一目でわかるシールやPOP作りをがんばっている。「今年は昨年よりも出荷量を増やし、より多くの人に味わってもらいたい」と橋本さん夫妻は新年の抱負を話す。(木村将史)

# 午年に挑む 新たな夢へ

午年の始めに、農業で新たな目標に挑む農業者を訪ね、これからの夢や抱負を聞きました。

# 「農業を人の生きがいに」

## イチゴ生産、農福連携も視野に

【大阪】「一人では実現が難しい夢も、想いを共有できる仲間と協力すること



「農業には人を前向きにする力があると信じている」と田中さん

雇用就農を経て、3年前に独立就農した。現在は直売所での生果販売やイチゴ狩りのほか、旬の時期以外もイチゴを楽しんでほしいとの思いから、飲食店と連携してかき氷や焼き菓子などの加工品も販売している。田中さんが見据える夢は、介護の資格を持っている人たちと連携し、高齢者施設などにイチゴ農園を設置すること。自ら育て、味わう喜びを高齢者や障がいのある人の生きがいにしたいという。

「さまざまな業種の人と新しいことに挑戦していきたい」と田中さんは笑顔で新年の抱負を語った。(林佑一郎)

# 「耕作放棄地を価値ある農地に」

## ユニバーサルデザインの園地設計

【和歌山】「収穫作業よりも重機に乗っている方が楽しい」と笑顔で話す海南



「自分が管理する園地はおおむね改良が終わった」と語る船橋さん

園地が多い。そのため、傾斜を緩やかにするほか、小型運搬車や軽トラックが十分に入れる園内作業道を設け、すべての人が安全に無理なく働けるユニバーサルデザインの思想を取り入れた園地に改造した。自身の管理地のほか、作業請け負いで近隣農家の園地にも取り組みを実施。「カブラが繁茂した耕作放棄地であっても、次の担い手へつなげるのであれば」と前向きに再生を行う。

今後は、経営の規模拡大や法人化とともに、農地の価値を高める造成の請け負いや件数を増やすことを目標にしている。(鹿嶋俊宏)

# 「おいしい果物を消費者に」

## 県立農大の同級生が移住就農

【兵庫】赤穂市で「あころフルーツ農園」を営む小川敬生さん(33)、神戸



ミカン農園で神原さん(左)と小川さん、愛犬の「もも」

二人は県立農業大学の同級生で、いったんは企業に就職したものの会社を退職し、子どものころからの夢だった農業に挑戦した。後継者のいなかった果樹園や耕作放棄地をあわせて約2畝でモモ・ブドウ・ミカンを栽培し、JA兵庫西の直売所「旬彩蔵」の各店や、近隣のイオン3店舗で販売している。新年を迎え「これまでの経験を生かし、旬の果物を安定的に地元消費者に届けたい」(小川さん)、「近年の気候に負けず、品質の良い果物を栽培し、お客さまにおいしいと喜んでもらいたい」(神原さん)と抱負を語った。(山口昭彦)

# 近畿

## 近畿総局

京都府農業会議 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075-4441-3366

滋賀県支局 077-523-2439

大阪府支局 06-6941-2701

兵庫県支局 078-391-1221

奈良県支局 074-222-1101

和歌山県支局 073-432-6114